



文系大学に進学するつもりだったが、高校3年になって歯学部進学を決めたため、そこから猛勉強して東京医科歯科大学に入学したという竹村さん。「歯科医師の父に『歯医者さんってどんな仕事?』と聞いたら『いい仕事だよ』というので興味を持ちました」と、進路決断のきっかけを語る。

Shu Takemura

竹村 修さん

歯学部歯学科4年

歯学科4年生の竹村修さん。現在は、5年生から始まる包括臨床実習に向けた臨床体験実習に取り組んでいる。歯科医師の父親が専門とするクラウンブリッジ実習も行われたが、まるでうまくできなかった。

「父親の技術の高さが、この実習を通じてよく分かりました。自分では手先が器用なほうだと思っていました。遊びでものを作るとでは全然違います」

4年生前期には、研究実習で難治疾患研究所の清水重臣教授の研究室に所属し、初めて本格的な研究を行った。「新規オートファジー機構を抑制する化合物のスクリーニングという研究テーマを与えてもらいました。細胞を扱った実験は初めてでしたが、実験の基礎から学び、とても勉強になりました」

入学後はゴルフ部に所属し、4年生では部長。歯学部、医学部合わせて約50人の部員がいるが、竹村さん同様にゴルフ未経験者も多い。しばらく練習場などで練習を重ね、夏前にコースデビューすると、どんどんうまくなるという。

「何十年もゴルフを続けている年配の男性は多いですが、ゴルフのどこにそんな魅力があるのか興味を持ちました。やってみると、大自然の中で自分自身とボールだけに集中できて、競技としても楽しいスポーツだと分かりました」

2016年度の全日本歯科学学生総合体



まずは大学院で
自分の強みを見つけ
臨床で活かしたい

育大会では、主管校としてゴルフ競技の実行委員長を務めた。「競技を行うゴルフ場の手配から、全国20校の全参加者のホテルの手配、スコアの集計まで、実行委員間の意思疎通を図りつつ進めるのに苦労しました。他大学とも連携する必要があるので、本当に大変でしたが、とても良い経験になりました」

5年生になると共用試験があり、勉強

はますます忙しくなる。それでも学ぶことが楽しい。人と接することも好きなので、将来は臨床の道に進みたいという。

「医歯学融合教育や口腔保健学科の先生の授業など、異分野の勉強もとても刺激になっています。将来の進路はまだ漠然としています。まずは大学院で自分の強みを見つけ、それを活かした臨床をやりたいと思っています」

B

大学に入学してからゴルフを始めて、ベストスコアは81。ゴルフ好きな先生たちとの会話が増えたり、先生主催のコンペに誘われるなど、ゴルフのおかげで先生や先輩たちと交流する機会が増えた。